

## 第 30 回日本疫学会学術総会 プレセミナー2020



# QOL 評価の活用方法 : Minimally Important Difference (MID) の観点から

QOL 評価は、Patient Reported Outcome (PRO)として FDA で「効能表示の裏付け」として認められ、ESMO では「QOL 改善が認められれば効果が 1 ランクあがる」など、臨床試験で活用されています。そこで、特定領域における QOL 評価の最小の差（値）としての Minimally Important Difference (MID:最小重要差) が注目されるようになりました。

**セミナーの到達目標** : 近年注目されてきた MID の観点をふまえて、臨床試験での QOL 評価の活用について、QOL/PRO 研究会の中心メンバーで疫学、医療経済学、臨床試験で国際的に活躍しているコメンテーターとともに討議して、疫学的観点と臨床的解釈をつなぐ方法論の理解を深めます。

【日時】2020年2月20日(木) 16時から18時

【会場】京都大学 国際イノベーションセンター シンポジウムホール

【参加申込】2019年12月20日(金)まで日本疫学会ホームページより

<https://jeaweb.jp/form/preseminar2020a.html>

参加者には受講証明書（疫学専門家申請の際に参加回数にカウントする）をお渡しします。

## プログラム

### 講義（概要説明）

QOL 評価と MID : 宮崎貴久子（京都大学大学院 医学研究科）

MID 測定方 : 内藤真理子（広島大学大学院 医系科学研究科）

MID と臨床試験 : 平 成人（岡山大学病院 乳腺内分泌外科）

### 活用方法について討議 コメンテーター

下妻晃二郎（立命館大学 生命科学部 生命医科学科）

齋藤信也（岡山大学大学院 保健学研究科）

白岩 健（保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター）